

技術概要書（様式）

※別紙2

出展技術の分類	安全・防災 インフラDX 維持管理 （環境） コスト 品質 （該当分類に○を付記）		
技術名称	カーボンニュートラル実現に向けたGHG排出量算定サービス	担当部署	アーバンソリューションサービス本部
NETIS登録番号	-	担当者	池尻 悠亮
社名等	トランスコスモス株式会社	電話番号	092-260-7919
技術の概要	1. 技術開発の背景及び契機		
	近年、地球規模での環境保全の重要性が高まる中、温室効果ガス（GHG）削減に向けた取り組みが世界的に加速しています。日本政府もこれに呼応し、GHG削減目標を掲げ、特にプライム市場に上場する企業に対しては、GHG排出量の開示と削減努力が義務化されました。これを受け、多くの企業が排出量算定のためのツールやコンサルティングサービスを活用していますが、実際には各拠点への説明、データ収集、取りまとめ、データ入力などの作業は企業自身が担う必要があり、現場の負担が増大しているのが現状です。こうした課題を解決し、企業のGHG算定業務の効率化と精度向上を図るため、本サービスの提供に着手しました。		
	2. 技術の内容		
	GHG排出量開示のためのデータ収集・算出を自動化するシステム構築を行いました。既存システムやローカルフォルダからのデータの連携を可能な限り実装し、データ収集を最大限自動化すると共に、PDFで保存されているデータについても原本からAI-OCRなどを活用したデータ抽出、データクレンジングを行い、各システムから排出量算定システムへデータを連携します。排出量算定システム上で入力データに対し、マスタデータから排出係数を紐づけて排出量を自動算出、排出量データを生成します。 排出係数との自動紐付け、Scope1～3排出量算定、CSV出力、BIツール連携による可視化まで一貫して実施することで、データ収集から加工、算定、分析までをワンストップで提供できる点が特長です。		
	3. 技術の効果		
	AI-OCRとBPOの組み合わせによりヒューマンエラーを抑制し、排出量データの網羅性・整合性を確保します。例えば、事前トライアルとして某ゼネコンでは、PoCでデータ抽出精度100%を達成したことや、各現場への架電をBPOで巻き取ることで、架電によるデータ催促など対応範囲の柔軟性が評価され、その後本格導入に繋がりました。また、建設以外にもメーカーの製品別排出量や売上との相関分析により、GHG排出量削減施策の検討が可能となります。導入後の継続率63%、PoC後の受注率80%と高い評価を得ています。		
4. 技術の適用範囲			
・建設業、製造業を中心に、GHG排出量の把握・報告・削減が求められる企業・団体に適用可能です。 ・Scope1～3算定、CFP（製品カーボンフットプリント）算定、カーボンクレジット活用による排出量オフセットなど幅広い用途に対応します。 ・建設現場や事業所から収集するエネルギー使用量、請求書、購買データ等を対象に適用可能であり、単体企業だけでなくグループ企業全体の排出量管理、可視化にも活用することが可能です。			
5. 活用実績			
・累計11件を受注（2024年3社、2025年8社と倍々に増加） ・PoC実施後の受注率は80%とサービスとしての機能・価格には一定の評価あり			

6. 写真・図・表

GHG排出量算定自動化サービス

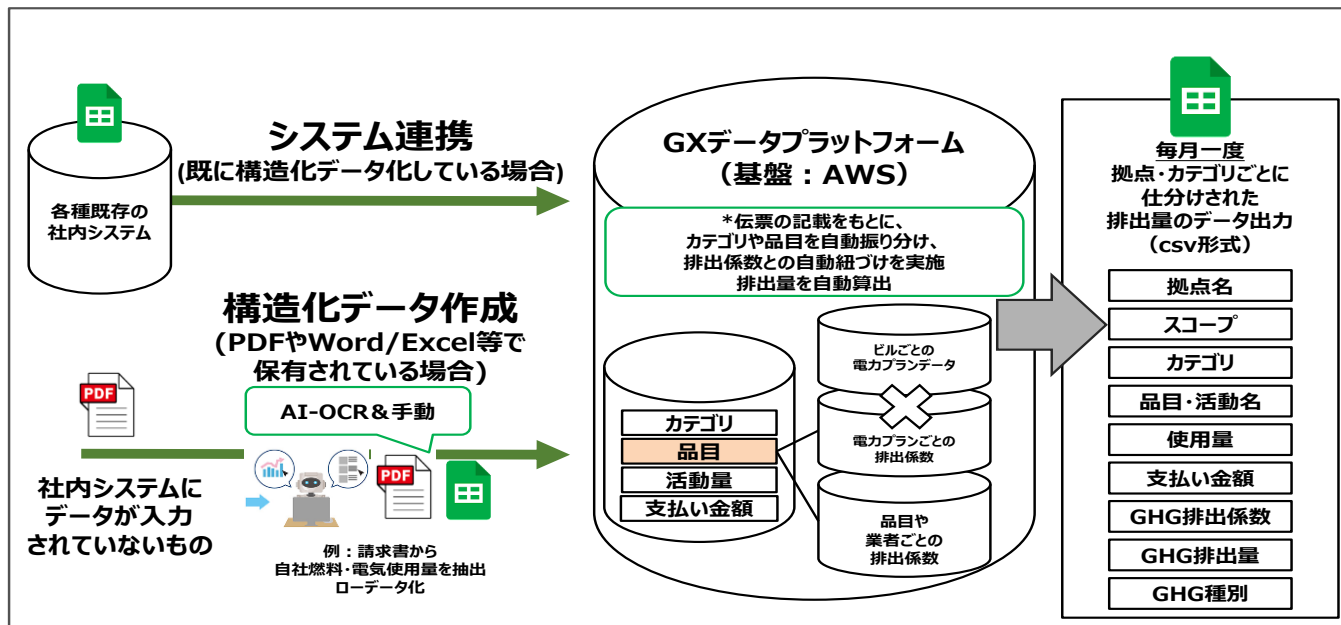
弊社スコープ: データ収集の座組構築とデータ加工、排出係数との紐づけ、算定

データ収集

データ加工・投入

自動紐づけ

GHG算定

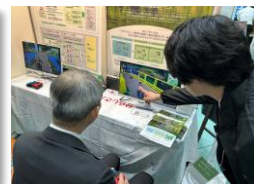


【建設工事におけるCO₂排出例】



～ゲーミフィケーションで学ぶGHGフットコル～
 施工現場における温室効果ガスの収集を
 フースにてぜひ体感ください！

check
it Out



会社HP